

[主訴]

耳鳴り

[随伴症状]

頭痛、眼精疲労、難聴、口の中が粘る、胃腸が弱い、倦怠感、足裏がたまにつる、眼痛、頸痛、肩凝り、腰痛、夜間排尿

[経過]

4週間前に耳鳴りと難聴発症。
同時期に後頭部の頭痛も発症。
MRIを撮ったが異常なし。
病院で処方された難聴の薬を服用中。

[望診]

体色は全体的に白だが、腰はやや黒がある。
背部左側の肝俞に色素沈着。
舌先赤。白苔あり。

[切診]

耳周辺に圧痛なし。
足はやや冷え。
缺盆部の凝りが顕著。
手の陽経に圧痛なし。

[腹診]

全体的に薄く緊張。
鼠径部やや圧痛あり。
臍下やや虚。

[脈診]

沈、遅、虚。
左関上重按で虚。

[証の決定]

腎虚と迷ったが、脈診で肝虚とした。

[治療]

陰谷、曲泉の補法。
肝兪、腎兪に間接灸。
天柱、風池に輸瀉。
肩背部散鍼。
三焦経輸瀉。

[経過]

1 診：高音の耳鳴りが若干和らぐ。肩凝りが軽くなった。

1 診で肩凝りに対して効果があったため2 診も1 診同様肝虚で治療しようと思ったが腰痛の訴えがあったため再度時間をかけて脈診。

今回は肝虚の脈がみられず腎虚が強かったため腎虚で治療することにした。

腰部は志室に圧痛硬結あり。

志室に1寸0番を置鍼。大腸兪にも同様に置鍼。

委中を輸瀉。

その他の標治法は1診と同様。

明日来院の際に腰痛と耳鳴りの変化、脈診で肝と腎のどちらを本証にするか決定する。

耳鳴りは治療が遅れると治りにくいので治療間隔をつめて通院してもらおうことにした。